

通告1番目、4番、福山晴美議員、一問一答方式で質問願います。

福山晴美議員。

○福山議員 おはようございます。

4番議席、福山晴美です。議長のお許しを得ましたので、通告に従いまして一問一答方式で質問します。

今回は、第32回全国健康福祉祭和歌山大会の取り組みについてと、カローリング競技についての2点です。よろしくお願いいたします。

まず1点目、第32回全国健康福祉祭和歌山大会の取り組みについてであります。今定例会において市長の行政報告で、岩出市ではペタンク競技の開催が決定しており、各種団体の協力のもと、6月4日にねんりんピック紀の国わかやま2019岩出市実行委員会を設立し、万全な準備と円滑な大会運営を進めてまいりますと、行政報告がありましたので、今回一般質問を行いたいと思います。

平成31年11月9日から12日にかけて、第32回全国健康福祉祭和歌山大会（ねんりんピック紀の国わかやま2019）が開催され、本市ではペタンク競技が開催されます。この大会は、全国から和歌山県へ延べ約40万人の高齢者の方々が、選手あるいは役員、また観客として、各種スポーツ競技や文化交流大会に出席していただく大規模な大会として開催されると聞いております。

そこで1点目、全国健康福祉祭について、どのようにお考えなのかお聞きします。

次に、2点目として、本大会まで約1年半となっており、6月4日にはねんりんピック紀の国わかやま2019岩出市実行委員会を設立したとのことですが、市としてどのような体制で、どのような取り組みをされてきているのか、お聞きします。

次に、3点目として、他県で開催された状況から見ますと、全国規模で行われる国体等と同じように、大会を盛り上げるための歓迎イベントや選手、関係者、観客に対してのおもてなしなど、積極的に行われていることをよく聞きます。このような状況の中、本市では、どのような運営を想定しているのか、現時点で結構ですでお答えください。

次に、4点目として、岩出市長期総合計画では、元気で健康なまちづくりを基本方針として、さまざまな施策に取り組んでおられます。この全国健康福祉祭は、スポーツ、囲碁、将棋、健康マージャン、俳句などの総合的な祭典であり、1人でも多くの高齢者の皆様に参画していただき、意味のあるものにしていただきたいと思いますので、今後どのようにして、その機運を高めていこうとしているのか、現時点で結構ですでお答えください。

○吉本議長 ただいまの1番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

市長。

○中芝市長 皆さん、おはようございます。

福山議員の第32回全国健康福祉祭和歌山大会の取り組みについて、お答えをいたします。

第32回全国健康福祉祭和歌山大会（ねんりんピック紀の国わかやま2019）は、スポーツや文化活動に高齢者みずからが躍動し、歓喜することを通じて、健康長寿を実感し、スポーツや文化活動の楽しさを精いっぱい味わえる大会となること、そして、地域や世代を超えたきずなを深め、和歌山に来てよかったと思ってもらえる大会となることを目指し取り組んでいるところであり、また、当市においても円滑な大会運営となるよう6月4日にねんりんピック紀の国わかやま2019岩出市実行委員会を設立し、準備を進めているところであります。

この大会を開催することにより、全国の高齢者の方々との交流を深めるとともに、高齢者がいつまでも健康で社会参加できる環境づくりを推進していくための大きな契機となるもので、大変意義深い大会であると考えております。

なお、詳細については市長公室長から答弁させます。

○吉本議長 市長公室長。

○久嶋市長公室長 おはようございます。

福山議員の第32回全国健康福祉祭和歌山大会の取り組みについて、お答えいたします。

1点目の全国健康福祉祭ねんりんピックについてであります。全国健康福祉祭につきまして、60歳以上の高齢者を中心としたスポーツや文化種目の交流大会を初め、健康や福祉に関する多彩なイベントを通じ、高齢者を中心とする国民の健康の保持増進、社会参加、生きがいの高揚等を図り、触れ合いと活力のある長寿社会の形成に寄与することを目的に、厚生労働省が主催する全国イベントであり、昭和63年第1回大会が兵庫県で開催されて以来、毎年、都道府県持ち回りで開催されております。

また、この大会は、国体と同様、全国から大勢の方が来県されることが見込まれておりますので、市民一丸となった笑顔のおもてなしを充実させ、全国からお越しいただく皆様楽しく参加できるよう体制を整えてまいります。

次に、2点目、これまでの市の取り組みについてであります。組織としては、本年度、市長公室内にねんりんピック推進室を設置し、6月4日には市長を会長と

して、スポーツ関係者、福祉・市民団体関係者、経済・観光関係者、医療関係者など36名の参画を得て、ねんりんピック紀の国わかやま2019岩出市実行委員会を設立、また、今後、運営委員会等の設置を行うなど、円滑な大会運営に努めてまいりたいと考えております。

なお、本年度開催県である富山県へ職員を派遣し、競技会場や運営方法並びに今後の課題等について、先催市実行委員会で聞き取り調査や情報収集を行い、選手・観客の利便性、安全面等に配慮した開催となるよう検討してまいります。

次に、3点目、どのような運営を想定しているのかについてであります。ねんりんピックは、競技だけではなく、より多くの方に楽しんでいただけるよう、健康推進コーナー、おもてなしコーナー、観光案内コーナーなど、それぞれのブースを設置したいと考えております。

また、会場が根来若もの広場であることから、道の駅ねごろ歴史の丘、旧和歌山県議会議事堂（一乗閣）、ねごろ歴史資料館等、岩出市のPRを行い、来場者の満足度向上とともに、岩出市の魅力発信の場としての活用も検討してまいりたいと考えております。

なお、リハーサル大会を本年11月10日、同場所での開催を予定しております。

次に、4点目、今後どのようにして機運を高めていこうとしているのかについてであります。ねんりんピック紀の国わかやま2019は、「あふれる情熱 はじける笑顔」をテーマとして、県下21市町で27種目のスポーツ競技や文化交流大会が開催されますので、多くの方に参加していただけるよう、また県内でどのような競技が行われるのかを市広報、市ウェブサイトやさまざまな機会を通じて、積極的なPRに努めるとともに、県等との連携を密にして、大会開催に向けた機運の醸成を図ってまいります。

いずれにいたしましても、本大会の開催は、岩出市の魅力をアピールする絶好の機会でもあり、また、元気な高齢者が活躍する生涯現役社会の実現、長寿社会の延伸の機運を高める大会になるよう努めてまいりますので、議員各位のご理解とご協力をお願いいたします。

○吉本議長 再質問を許します。

福山晴美議員。

○福山議員 本大会については、平成31年11月9日から12日までの4日間、またリハーサル大会を本年11月10日に開催するとのことですが、予定している両大会の開催規模及びリハーサル大会をどのように考えているのか、お聞きします。

○吉本議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

市長公室長。

○久嶋市長公室長 福山議員の再質問についてお答えいたします。

競技者数ですが、現時点で、本大会は288人、72チーム、リハーサル大会は192人、64チームとなっております。また、本大会のペタンク競技が、平成31年11月10日と11日に根来若もの広場で開催されることから、リハーサル大会も同じ時期、同じ場所での開催により、ハード・ソフト両面から課題や問題点の洗い出しができるものと考えております。

いずれにいたしましても、全国からお越しいただく皆様が楽しく参加できるよう、市挙げての取り組みにより、万全な準備と円滑な大会運営に努めてまいりたいと考えております。

○吉本議長 再々質問を許します。

(なし)

○吉本議長 これで、福山晴美議員の1番目の質問を終わります。

引き続きまして、2番目の質問を願います。

福山晴美議員。

○福山議員 2点目に、カローリング競技について質問いたします。

先日、私たち厚生文教常任委員会で、行政視察をして、広島県呉市に行っていました。呉市では、健康寿命の延伸を目的とした事業として、減塩生活に向けた取り組みを行っていました。呉市は、生活習慣病の主な疾患である、がん、心疾患、脳血管疾患による死亡率が全国平均よりも高い地域で、市民の皆さんの健康寿命を延ばしたい、その実現に向けた市の重点事業の1つとして、高血圧の要因でもある塩の過剰摂取に着目した健康づくりを開始したとありました。

本当に減塩も大切なことなのですが、健康寿命を伸ばすための取り組みというのはいろいろあって、先日、テレビでも見たのですが、人と人とのつながりが、その中でもとても大事であって、円滑なコミュニケーションと適度な運動が重要な役割を果たすであろうと言っていました。

そこで、今回は適度な運動という視点に立って、カローリング競技について質問したいと思います。

カローリングという名称については、初めて聞かれる方も多いと思いますが、カローリングとは、簡単に言いますと、氷の上で行うカーリングを室内で行う競技であります。カーリングについては、平昌オリンピックで日本選手が史上初の銅メダ

ルに輝くなど、大活躍したことは記憶に新しいことではありますが、カーリング競技での大活躍が、カローリング競技の人気に拍車をかけたとも言われております。

カローリング競技とは、1993年考案された競技で、名前の由来は軽やかにローリングということから命名されたもので、高齢者はもとより障害のある方、小さいお子さんまで、年齢、性別、体力など関係なく、誰もが一緒に楽しめるスポーツとして、今広がってきております

2015年に開催された紀の国わかやま国体においては、デモンストレーションの競技として披露され、ことしのねりんピック富山2018では、初めての競技として取り入れられております。

私は、いつも高齢者の集まりに参加しているんですが、そのときにちょっと初めて教えていただきました。その人たちの話によると、私たちみたいに年をとって、腰が痛かったり、膝が痛かったら、無理なスポーツがでけへんねんけど、体動かすことがすごく大事やということだけはわかっていると。でも、これはそういう人たちでもスポーツできる。年をとって、あちこち痛くなっても、思うように体が動かなくなってもこれはできると、力強く話してくれて、それにグループであるから、みんなと一緒に頑張れる、コミュニケーションがとれる、だから楽しいという話とテーブルの上で教えてくれました。

カローリングという競技の特徴から、世代を超えて楽しめるスポーツであるとは思いますが、少子化、高齢化、地域のつながりが希薄化する中、健康づくり、地域間、世代間のコミュニケーションづくりとして1つのツールになるものと思います。

そこで、まずお聞きしたいのは、和歌山県内、岩出市内におけるカローリング競技の実態はどうなのか。また、岩出市の認識についてお聞きいたします。

2点目の質問として、今後、岩出市としてカローリング競技について研究していただき、市民の方々の健康づくり、コミュニケーションづくりに役立てていただきたいと思いますが、市としてのお考えをお聞きします。

○吉本議長 ただいまの2番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育部長。

○湯川教育部長 カローリング競技についてのご質問にお答えいたします。

1点目、県内における状況と岩出市の認識についてではありますが、議員ご指摘のとおり、紀の国わかやま国体におきまして、デモンストレーションスポーツということで海南市の総合体育館で開催されておきまして、本年度のねりんピック富山

2018では、富山県カローリング協会により、富山県入善町で初の開催種目として実施されます。

和歌山県の状況についてですが、県の協会は設置されていないようですが、海南市のように市町村単位で協会を設置しているところもございます。和歌山県では、社団法人和歌山県体育協会により、高齢者がそれぞれの健康状態や身体能力、スポーツ事情に応じて、体を動かしたり、運動やスポーツを楽しんだりできる環境を整備することを目的に、高齢者の運動、スポーツ活動への参加機会の創出をテーマに、元気アップ！カローリング教室を実施してございます。

また、橋本市や田辺市ではスポーツ教室として開催、新宮市では中学校の育友会主催で教室が開催されるなど、競技人口もふえている状況と聞いております。

本市におきましては、高齢者を中心としたニュースポーツとして、これまでもその時々流行した、例えば、ゲートボール、ウォーキング、あるいはペタンクなどを推奨してきた経緯がございますが、岩出市スポーツ推進計画では、基本方針として、誰でも気軽に参加できる多様なレベルに合わせたスポーツメニューの充実やスポーツ教室の開催等を進めるとともに、いつでも、どこでも、誰もが気楽に楽しめるニュースポーツの普及に努めると定めているところでございます。

2点目の市としての今後の方向性ですが、今、お答えいたしましたように、市といたしましては、市民の皆様が誰でも気軽に参加して、健康づくりや体力増強につながるニュースポーツは、これまでも推進してまいりましたが、種目の多様化によりまして、一時期にはぱっと広がっても、なかなか長続きしない傾向も見られること、また来年度は、ねんりんピックにおいてペタンク競技を実施する予定であることから、直ちに大々的にはというわけにはまいりませんが、カローリング競技について調査研究を進めるとともに、県内や地域における広がり等にも注視してまいりたいと考えてございます。

○吉本議長 再質問を許します。

福山晴美議員。

○福山議員 ありがとうございます。私も、ねんりんピックはねんりんピックで頑張ってくださいと言っている一方で、今、カローリング競技について質問するということは少し心苦しいところもあったのですが、確かにゲートボールなどは一時期にぱっと広がって、各地域にグラウンドとかもできたんですが、現在は続いているのかどうかかわらない場所もあることは確かであり、こういったスポーツというのは、その時期その時期のはやりというのものもあるのも確かだとは思いますが。

また、ねんりんピックで、ペタンク交流大会を控えて、別の競技を推奨もできないとは思いますが。でも、カローリング競技は、先ほども申し上げたように、高齢者はもとより障害のある方、小さいお子さんまで、年齢、性別、体力等に関係なく、誰もが一緒に楽しめるスポーツとして広がっておりますので、県内やほかの市町村の状況を見ていただきながら、ぜひ岩出市においても、総合体育館や総合福祉センターにおいてカローリング教室を開催するなど、市民の皆様方に興味を持っていただくような取り組みを進めていただきたいとは思っておりますが、どうでしょうか。

○吉本議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育部長。

○湯川教育部長 再質問にお答えいたします。

議員ご質問の主旨、よく理解してございます。カローリング競技につきましては、現在のところ、県の協会も設置されておられません。まだまだこれからの競技であるように思います。

また、本市においても、現在どれぐらいの方が競技をされているのか、あるいはペタンク競技のように、今後、市の協会を設置して本格的な競技として発展していく可能性があるのかどうか、こういったこともまだまだ未知数な部分もございます。

また、ねんりんピックを控えてカローリング競技をPRしていくというわけにもいきませんので、先ほどお答えさせていただきましたように、県内の状況あるいは地域の動向を見ながら、調査研究をしてまいりたいと考えております。ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

○吉本議長 再々質問を許します。

(なし)

○吉本議長 これで、福山晴美議員の2番目の質問を終わります。

以上で、福山晴美議員の一般質問を終わります。